

国語科学習指導案

指導事項

- ・登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、優れた叙述について自分の考えをまとめること。(C (1) ウ)
- ・表現の効果などについて確かめたり工夫したりすること。(B (1) オ)

今回の取り組み(挑戦)

- ・フレームリーディングという文章の内容や構造を丸ごととらえる読みの手法を活用し、教師や子どもがワクワクしながら授業に取り組めるよう、授業改善をしていく。
- ・物語の読みの視点(① 何がどのように変容したか、② いつ変容したか、③ なぜ変容したか)を意識して読み取らせていく。
- ・学習用語「山場(クライマックス)」を押さえ、山場を考えさせていく。

- 1 教材名 大造じいさんとがん (読む:物語文)・・・教育出版
- 2 目標 残雪に対する大造じいさんの心情の変化を読み、大造じいさんの立場になって、書きかえる。
(＊書きかえるとは、会話文、心内後、行動を表す地の文、それぞれに大造じいさんの内面を語りだすこと。)
- 3 学習計画
一次：登場人物ならびに中心人物、時、場などの設定の確認をし初発の感想を書く。①
・物語の最初の大造じいさんの心情と最後の大造じいさんの心情を比較してノートに整理し、物語のおよその内容をつかむ。①
二次：大造じいさんは、残雪をとらえるため作戦を何回実行したか考える。また、繰り返しの構造をつかむ。①
・大造じいさんが残雪に対する思いをいつ変えたのか話し合う。①
「ここが大事」を活用し、山場について理解する。
・あれほどとらえなかった残雪を、なぜ逃がしてしまったのか考え作品の主題について考える。①
三次：「大造じいさん」の立場で書きかえたり、書きかえた文章をお互いに読み合っ、考えを広る。②

1 時間目

登場人物ならびに中心人物の確認をし初発の感想を書く。

学習活動	時間	指導上の留意点	評価
1 本単元のめあて「立場を変えて書きかえよう」を確認する。	3	<ul style="list-style-type: none"> ・黒板にめあてを書き、ノートに試写させ、本単元の見通しをもたせる。 	
<p>2 本時のめあて、「登場人物を確認したり初発の感想を読み合ったりすることができる」を視写する。</p> <p>3 場面分けをする。</p> <p>4 本文の範読を聞く。</p> <p>4 登場人物を確認したり、中心人物を考えたりする。</p> <p>4 イメージマップに初発の感想をまとめる。</p> <p>5 イメージマップをもとに交流する。</p>	<p>5</p> <p>1 5</p> <p>5</p> <p>5</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・めあてを視写させ、本日の学習の見通しを持たせる。 ・4つの場面で構成されていることを確認する。 ・全文の範読を聞かせるときに、範読を聞いた後、登場人物を確認すること、感想を、イメージマップにまとめることを伝える。 ・登場人物をノートにまとめる。(1分) <ol style="list-style-type: none"> 1 大造じいさん 2 がん(残雪) ・中心人物を確認する。 大造じいさんであるが、下記の内容について説明をしてから、考えさせる。 *中心人物とは、作品中で大きく変容する人物のことです。変容する、言い換えると変わるものは、「気持ちが変わる」「他の登場人物との関係が変わる」、「ものの見方・考え方が変わる」、「生き方が変わる」などです。 ・文章でまとめることに抵抗感を感じない児童もいると思うので、イメージマップを活用する。 ・すぐに、発言させず、交流をする。交流のさせ方は、最初に隣と、次に席を立たせ、自分の好きな人と行わせる。時間は3分程度。席につかせた時に、何人の人のノートを見せてもらうことがで 	<p>登場人物をノートにまとめている。(ノート・観察) 読む</p>

(まずは見せ合う→ 一斉での交流)	10分	きたか、確認する。また、上手な交流ができていた人を紹介する。この活動を入れることにより、自分のよさや不十分さに気づいたり、次時の学習への意欲にもつなげていきたい。 ・時間の目安 ① ペア学習 1分 (隣どおし) ② 少人数 3分 (自由に) ③ 一斉 5分 (発言で)	
6本時の学習の自己評価をする。	2	・めあてにもどり、自己評価をさせる。	

2時間目

物語の最初の大造じいさんの心情と最後の大造じいさんの心情を比較してノートに整理し、物語のおよその内容をつかむ。

学習活動	時間	指導上の留意点	評価
1 本時のめあて 「物語の最初の大造じいさんと最後の大造じいさんを比較してノートに整理することができる。」	3	・黒板にめあてを書き、ノートに試写させる。めあてを提示することにより、次の活動である音読の目的意識を持たせていく。集中して試写する習慣が身に付くように、2分程度たったら、音読を開始することを予告しておく。	
2 本文の音読をする。	15	・全文を通読させる。読むときに、歯切れ良く音読することが、内容を理解する上で基礎となることを伝える。 (全員で声をあわせて)	
3 冒頭場面から、大造じいさんと残雪の設定を確認する。 (発言で確認)	5	・登場人物 大造じいさん がん (残雪) ・大造じいさんはどんな人 ・残雪はどんながん ・物語の場面 沼地	
3 物語の最初の大造じいさんと最後の大造じいさんを比較してノートにまとめ交流する。	20	・物語は、最初と最後で何かが大きく変わる。前時に、中心人物を大造じいさんととらえているので、中心人物がどのように変わったのか、整理していくことを伝える。このことにより、考えることを明確にしていきたい。 ・ノートを上下に真ん中で分け、最初・最後と書けるようにする。	大造じいさんの変容をノートに整理している。(ノート・観察)読む

		<ul style="list-style-type: none"> 項目を教師が指定するやり方もあるが、今回は項目は書かせないで、物語の最初と最後の変容をまとめさせていきたい。一斉での交流をする際に、このことは何のことについて、比較して考えたのか、整理していきたい。 	
4 整理したことをもとに、交流する。 (小集団から一斉へ)		<ul style="list-style-type: none"> 全体で確認する前に、ペア学習・グループ学習などが入ると、交流活動になる。(はばプラ) <p>*時間配分</p> <p>① ノートにまとめる。7分</p> <p>② ペア学習 5分</p> <p>③ 一斉で確認 8分</p>	
6 本時の学習の自己評価をする。	2	<ul style="list-style-type: none"> めあてにもどり、自己評価をさせる。 	

3時間目

大造じいさんは、残雪をとらえるため作戦を何回実行したか考える。また、繰り返しの構造を確認する。

つけ学習活動	時間	指導上の留意点	評価
1 本時のめあて「作戦の回数について確かめ、作戦名をつける」	3	<ul style="list-style-type: none"> 黒板にめあてを書き、ノートに試写させる。集中して試写する習慣が身に付くようにする。 	
2 本文の音読をする。	10	<ul style="list-style-type: none"> 全文を通読させる。読むときに、歯切れ良く音読することが、内容を理解する上で基礎となることを伝える。 (個人読み：10分経過したら、全員の児童の音読が終了していなくても、次に進む。) 	
3 作戦の回数を整理し、作戦名をつける。	15	<ul style="list-style-type: none"> 大造じいさんは、残雪をとらえるために何回作戦を立てたか考え、ノートに回数を書かせる。 3回 3回の作戦に名前を付け、作戦の成果、についてをまとめる。 1回目：ウナギつりばり作戦 一羽のがんをとらえる。 しかし、翌日はすべて見破られた。 2回目：タニシばらまき作戦 手前で見破られた。 3回目：おとりのがん作戦 	<p>すぐれた表現をノートに書きだしている。</p> <p>(ノート・観察) 読む</p>

		はやぶさがやってきた。	
4 整理したことをもとに交流する。 (小集団から一斉へ)	15	<ul style="list-style-type: none"> ・全体で確認する前に、ペア学習・グループ学習などの交流活動を行う。(はばプラ) ・一斉での確認をする。 ・作戦でつかまえたがんは何羽であるか問う。二羽という回答があることが予想される。二羽目の残雪は、大造じいさんの作戦でつかまえたわけではないことを確認する。 ・3回の作戦でも ・作戦が3回行われるような物語の展開は、繰り返しのある作品ということを指導する。(今までの学習の中にも、繰り返しの作品は多数あったことを想起させる。おおきなかぶ、キツネのおきやくさま・・・) 	
6本時の学習の自己評価をする。	2	・めあてにもどり、自己評価をさせる。	

4時間目

大造じいさんが残雪に対する思いをいつ変えたのか話し合う。また、「ここが大事」を活用し、山場について理解する。

学習活動	時間	指導上の留意点	評価
1 本時のめあて 「この作品の山場をとらえる」	3	・黒板にめあてを書き、ノートに視写させる。集中して試写する習慣が身に付くように、2分程度たったら、音読を開始することを予告しておく。	
2 山場について理解する。	10	・p107の「ここが大事」を読んで、物語の中で、中心人物の心情や行動などが大きく変わるところを「山場」ということを押さえる。また、物語は起承転結で構成されていること、山場は転のところにあること、この作品でいうと3の場面であることを確認する。	
2 3の場面(山場)を音読する。	5	・山場の場면을音読させる。読むときに、歯切れ良く音読することが、内容を理解する上で基礎となることを伝える。	
3 大造じいさんが、残雪に対して、もっとも大きく見方を変えたのはいつなのか考え	15	<ul style="list-style-type: none"> ・ノートに文を抜き出させ、その理由を書かせる。 予想 ① : 大造じいさんは、ぐっとじゅうをかたに当て、残雪をねらいました。が、なんと思った 	(ノート・観察) 読む

<p>る。</p> <p>強く心を打たれた理由を考える。</p>		<p>か、再び、じゅうを下ろしてしまいました。</p> <p>② 大造じいさんは、強く心を打たれて、ただの鳥に対してのような気がしませんでした。</p> <p>*山場は、注意人物が大きく変わったとわかる瞬間であるから、②が正解。</p> <p>① は、大造じいさんがどのような思いで銃を下ろしたのかという叙述がないので、山場とは言えない。(児童から考えが出されないことが予想される。その際は教師が説明する。あまり時間を書けない。)</p> <p>② の「強く心を打たれた」とあるが、その理由を2つ考えさせる。4年生までの学習で、山場について考えた経験が少ないので、空中での残雪に対して、地上での残雪に対してと視点を与えることにより、中心人物の心情を明確にとらえさせたい。</p> <p>*空中で自分の身の危険をかえりみず、仲間のがんを救うためにはやぶさに立ち向かった。</p> <p>*大造じいさんを正面からにらみつけた地上での姿。</p> <p>上記の二つの残雪の姿から、心を動かされたとまとめたい。</p>	
<p>5 整理したことをもとに交流する。 (小集団から一斉へ)</p>	<p>10</p>	<p>・全体で確認する前に、ペア学習・グループ学習などの交流活動を行う。(はばプラ)</p>	
<p>6 本時の学習の自己評価をする。</p>	<p>2</p>	<p>・めあてにもどり、自己評価をさせる。</p>	

* 4時間目は、本単元の重要な時間である。

* 大造じいさんの心情の読み取りだけではなく、山場を考えさせることを意識して、授業を展開してほしい。

5時間目

あれほどとらえたかった残雪を、なぜ逃がしてしまったのか考える。

学習活動	時間	指導上の留意点	評価
<p>1 本時のめあて 「なぜ、残雪を逃がした</p>	<p>3</p>	<p>・黒板にめあてを書き、ノートに視写させる。集中して試写する習慣が身に付くようにする。</p>	

のか考える」		・本時は、逃がしたという事実を確認するためではなく、大造じいさんの生き方を考えることを伝える。	
2 本文の音読をする。	10	・全文を通読させる。読むときに、歯切れ良く音読することが、内容を理解する上で基礎となることを伝える。 (個人読み：10分以内)	
3 なぜ残雪を逃がしてしまったのか、考える。	15	・予想される反応 ① もう一度、堂々と戦いたかった。 ② ひきょうなやり方で仕留めたくなかった。 ・②が出てきたら、ひきょうなやり方とはどのようなやり方なのか、切り返しの発問をする。 ・予想される反応 ① 残雪が仲間を救おうとしているときに仕留めること。 ② 他のこと（はやぶさと戦っている）に気をとられているときに残雪を撃つこと。 *指名の仕方工夫してみてください。 一人の児童が発言したらもうおしまいではなく、複数の児童を指名して、発言させていきたい。	残雪をにがしてしまった理由を考えている。(ノート・観察)読む
4 作品の主題を考える。	5	・1時間目のイメージマップに、作品の主題を赤で記入させていく。 視点としては ① 猟師として ② 自然に対して ③ どう生きるのか	
4 記入した主題ををもとに交流する。 (小集団から一斉へ)	10	・全体で確認する前に、ペア学習・グループ学習などの交流活動を行う。(はばプラ) ・一斉での確認をする。	
5 本時の学習の自己評価をする。	2	・めあてにもどり、自己評価をさせる。	

6・7時間目

「大造じいさん」の立場で書きかえたり、書きかえた文章をお互いに読み合ったりして、考えを広げる。

学習活動	時間	指導上の留意点	評価
<p>1 本時のめあて 「大造じいさんの立場で、文章を書きかえ 200 字程度にまとめる」</p>	<p>15</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 黒板にめあてを書き、ノートに視写させる。 ・ *大造じいさんの立場とは、言葉を変えると、大造じいさんになったつもりでと説明を付け加える。 ・ 手順を説明する。 ① 山場を確認する。(既習事項) ② 書きかえる文章を確認する。 p 102 L 13～p 103 L 10 ③ p 108 上段の気を付けることを確認する。 ④ p 108 の書きかえの例を読んでまとめ方のイメージをもたせる。 段落を付ける。3～4段落にする。 ⑤ 条件として、200字程度(原稿用紙1枚を配布するとよい。) 	
<p>2 原稿用紙に、書きかえる。</p>	<p>30</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 原稿用紙に氏名を書いて、書き始める。 ・ 仕上がらなかった場合は、宿題 ・ 次の国語の時間に、読み合うことを予告しておく。 	
<p>3 本時のめあて、「互いに作品を読み合おう」 自分で書いた文章を朗読する。</p>	<p>15</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 黒板にめあてを書き、ノートに視写させる。 ・ 朗読とは、文章の内容や文体、そこから受ける感動などを聞き手に音声化して伝えることである。 ・ このあと、朗読の練習をしてもらうが、大造じいさんの心情を相手に伝えるということを意識して練習をしていくことを理解させる。 ・ 思いが伝わるとは、 ① 声の大きさ ② 強弱 ③ 間の取り方 ④ 抑揚 ・ 自分の作品の朗読練習をすることにより、誤字 	

		脱字に気づいたり、文のねじれに気づいたりするので、気づいた段階で修正させる。	
5本時の学習の自己評価をする。	5	・めあてにもどり、自己評価をさせる。	

8時間目

自分の感じたことが伝わるように朗読する。

学習活動	時間	指導上の留意点	評価
1 本時のめあて 「自分の感じたことが伝わるように朗読する」	3	・黒板にめあてを書き、ノートに視写させる。	
2 朗読の練習をする。 (リハーサル)	5	・前時の視点にそって練習をする。 思いが伝わるとは、 ① メモの三段落目の内容が伝わるとは ・声の大きさ ・強弱 ・間の取り方 ・抑揚	
3 朗読会を行う。	15	・朗読会の手順 ① 心に残った場面について、自分の感じたことを伝える。(まとめたメモ) ② 朗読する。 ③ 聞き手が朗読のよさを伝える。 (技能面の良さだけではない。大切なのは、どのような気持ちで朗読しているか。) *学習形態 ① 一斉 ② グループ ③ 屋台村 ④ その他	自分の思いが伝わる朗読ができた。(朗読)読む
5 先生の感想を聞く。	20	・朗読会の取り組みを評価し、教師の価値を伝える。場合によっては、先生が印象に残った児童を意図的指名して朗読させ、感想を伝えてもよい。	
5本単元をひりかえっての学習の自己評価をする。	7	・1時間目のめあて「感想を話し合おう」にもどり、自己評価をさせる。	